

令和6年度フロンティア・アドベンチャー 「やまなし少年海洋道中」事業報告

事業概要

今年で35回目を迎えたフロンティア・アドベンチャー「やまなし少年海洋道中」は、現地研修中天候にも恵まれ、8月1日から8月9日までの全日程を予定通り実施することが出来ました。八丈島の皆さんのご協力もあり、どのプログラムも参加者にとって、充実したものとなりました。

クルージング体験、スノーケリング、八丈島の小中学生との交流、1泊2日で八丈島内を巡るサバイバル踏破など、参加した中学生は、様々な体験活動を通して、多くのことを学び、これまで以上に大きく成長することができました。

出発の日（8月1日）



研修初日、山梨県立図書館イベントスペースにて出発式を行いました。7月初めに事前研修会を行ってから約1ヶ月が経過し、久しぶりの仲間との再会、そして、いよいよ親元を離れて旅立つということで、少し緊張した面持ちの参加者を迎えました。それでも、顔を合わせて話し出すと表情も和らぎ、これからへの期待に、心弾む様子がうかがえました。

誓いの言葉では、参加者代表が「多様性を学びながら、友情・奉仕・連帯・開拓・交流の精神を培い、未来のリーダーとなるべく各自が大きく成長することを目指し、この8泊9日の研修に勇猛果敢に取り組みます。」「熱い心を持ち、心の目を大きく開いて、このまたとない経験の全てを吸収し、仲間とともに助け合いながら、将来に向けて自信を持って突き進む為の大きな力を育んでいきます。」と宣誓し、初日の良いスタートを切ることができました。出発式を終えた後、見送りに来てくださった多くの保護者の方々の前で、元気に「行ってきます」と挨拶をして、バスに乗り込み、竹芝桟橋へ向かいました。夜の海に浮かぶ「橘丸」に乗船し、八丈を目指しました。



八丈島到着、開村の日（8月2日）



2日目。約10時間の船旅。船酔いする参加者・指導者もいましたが、天候にも恵まれ、デッキに出るとキラキラ輝く海が広がっていました。水平線の先に何もなく、延々と海が続く景色は壮観でした。

八丈島へ到着して下船すると、今年度も八丈町教育委員会（以降、八丈教委）の皆さんが、横断幕やのぼり旗を持って、温かい笑顔で迎えてくださいました。歓迎セレモニーでは、八丈町の佐藤教育長より歓迎のお言葉をいただき、八丈の地でたくさんの経験をし、大きく成長することを胸に誓いました。朝食を食べ終わると、気持ちの良い空の下を、みんなで垂戸ベースキャンプ地（以降BC）へ向かい歩きました。



BC到着後、全員でテント設営等を行いました。大学生ボランティアリーダー（以降VL）の指示を聞きながら、班ごとに割り当てられたエリアに、各班テント2張りと食事用テントを、どの位置に、どんな向きで設置するか等、自分たちの今後の生活を考えて設営していきました。非常に暑い中でしたが、1ヶ月前の事前研修で学んだことを思い出しながら、仲間と協力する姿が見られました。



設営を終えた班からシャワーを浴び、その後に開村式を行いました。各班長が、自分たちが八丈島でどんなことを目標に生活していくか、この事業の目標である「友情・奉仕・連帯・開拓・交流」に基づいて、決意表明しました。参加者それぞれが士気を高める時間となりました。



開村式を終えて、初日の野外炊事に移りました。どの班も薪割りから始め、火起こし、調理、の順で八丈島上陸後初の野外炊事を進めました。お米が焦げてしまった、親子丼の具が水っぽくなってしまった等、失敗があった班もありましたが、自分たちで作った親子丼の味は格別でした。食べる頃には辺りは真っ暗でしたが、ヘッドライトを上手に使いこなし、片付けもしっかりと行いました。



昨年度に引き続き、事前のキャンプ用品の搬入や集会テントの設営、毎日の氷の準備等、各研修活動プログラムへのサポートをしてくださった八丈教委の方々には、本当に多大なる御支援をいただきました。この後の日程が無事終えられたのも、手厚い御支援のお陰です。

海洋の日（8月3日）漁船クルージング活動、スノーケリングⅠ



研修3日目は、島の醍醐味でもある海洋体験の日。

この日も晴天。絶好の海日和の中、まず、神湊漁港に向かい、漁船のクルージング体験をしました。この日の八丈島周辺の波は比較的高く、漁船クルージングはまるでジェットコースターのような衝撃を受けました。海水を体いっぱい浴び、びしょびしょに濡れながら、海の揺れを楽しんでいる様子がありました。また、どこまでも続く空と海の青い景色に感動しながら、広い

海を優雅に泳ぐウミガメや船と併走して海上を飛行するトビウオを運良く見られた参加者もいました。

クルージングを終え、次はくさや工場へ向かいました。今年度は、海水温の上昇でムロアジが全く捕れない日が続いているということで、魚を捌く体験は出来ませんでした。しかし、マルタ水産の浅沼様のご厚意で、工場内を案内してもらったり、保存してあったくさやを試食させてもらったりして、八丈島の特産品について深く学ぶことが出来ました。また、工場内のくさや汁の臭いに衝撃を受けたのもとても良い経験でした。



午後は参加者が楽しみにしていたスノーケリングです。実施地である底土海岸へ歩いて向かいました。底土海岸に着くと、漁協女性部の皆さん提供の八丈島産の材料で作った「手作り弁当」が用意されていました。トビウオのすり身揚げ、メジマグロの竜田揚げ、手作りツナの揚げ餃子、ムロアジのメンチカツバーガーなど、どれも美味しくて、早くも八丈島の味を満喫できました。



そして、スノーケリング体験。今年度も八丈町で活動するフリーダイビングチーム Team BlueArch（ブルーアーチ）の方々に御指導いただきました。1ヶ月前の事前研修会で、昨年度ブルーアーチの代表を務めていた方から特別指導を受けました。丁寧な事前指導のおかげもあって、

八丈島のきれいな海では参加者たちは気持ちよく泳ぎました。ブルーアーチの皆さんやスノーケリングに長けた八丈教委はじめ町の協力者の方々が、各班に2名以上ついてくださる手厚いサポートで、参加者は想定以上に上達しました。海水浴場内を遊泳するウミガメと出会えた班もあり、参加者は大興奮でした。一方で、海水温の上昇や観光客による踏み潰しによる珊瑚の白化が進んでいるという現実を知り、環境問題について真剣に考える良いきっかけとなりました。



スノーケリングの後は、BCまで歩いて戻り、すぐに薪割りから夕食の準備を始めました。待っていればご飯が出てくる普段の生活とは違い、本事業ではどんなに疲れても自分たちで作らなければ食事にはありつけません。当たり前にご飯が食べられる普段の生活のありがたみを、身をもって感じたことと思います。

交流の日（8月4日） 朝釣り、八丈町小中学生との麦雑炊作り



この日は早朝5時に集まり、朝釣り(希望者のみ)を行いました。まだ薄暗い中、神湊港へ移動し、朝日が昇るのを見ながら海釣りを楽しみました。残念ながら、爆釣ということにはならず・・・、1名の参加者が「オジサン」という魚を釣り上げるにとどまりました。しかし、山梨にはない海風を肌で感じながらの釣りは、きっと参加者の心に強く残ったことでしょう。

10時からは八丈町小中学生と交流しました。最初はお互いぎこちないやり取りでしたが、アイスブレイクを通して距離を一気に縮め、お互いの住んでいる場所の紹介や趣味の話で盛り上がりました。交流会後半は、三根婦人会の皆様にご指導いただき、八丈町郷土料理の麦雑炊を作りました。八丈島の方言を教えてもらいながら、八丈島で採れた貝や野菜、きのこなどの食材を切り分けました。お米があまりとれなかった八丈島では、昔から麦やあわ・きびを主食とし、雑炊にして食べていたようです。八丈島の食の歴史も学び、知識もお腹もいっぱいになりました。



雑炊づくりと同時並行で、各班BCにある物を使って、「生卵キャッチ装置を作る」というミッションに取り組みました。八丈の小中学生と相談・協力しながら、どうしたら割らずにキャッチできるか皆で意見を出し合いながら、工夫して装置を作りました。共同作業を通して、山梨と八丈の子どもたちの心の距離がさらに縮まり、きずなを深めることができたのでしょ。短い時間の交流でしたが、話すだけでなく、体験を共有して通じ合うものが生まれ、仲良くやりとりする様子が見られました。



夜は、次の日に控えた本事業最大のプログラム「サバイバル踏破」のパッキングを行いました。自分の荷物に加えて、配布された2日分の食料や調理器具、ブルーシート等を話し合いながら分配しました。本当に必要な物なのか、足りない物はないか、真剣に班員同士で考え、過酷なサバイバル踏破に入念に準備を行いました。中には、班員の2日分の食料を一人で全部受け持つ強者もいました。



サバイバル踏破（8月5、6日）

海洋道中・現地研修のメインイベント、1泊2日の八丈島内巡り「サバイバル踏破」。各班、自分たちで八丈島の地形や特徴を調べ、それぞれの計画を立てました。出発の時間も朝5時に設定した班が多く、4時台には起床して、八丈島一周に向けて元気よくBCを後にしました。

晴天に恵まれ、暑さとの戦いに苦戦する班もありましたが、V.L指導のもと、うまく休憩を挟みながら歩き、ビバーク地へ向けて一步一步進んでいきました。予定より遅れる班もありましたが、暑さや足の痛みを乗り越えて、どの班もビバーク地へ辿り着き、各地の温泉で疲れを癒しました。途中、八丈島の住民の方の声援を受け、挫けそうになる心に元気をもらいました。フルーツやアイスなどを差し入れてもらった班もあり、ここでも八丈島の皆様の温かさを感じることが出来ました。夜はみんなで夕食を食べ、満天の星空の下で、たくさん話をして、参加者の絆を深めたようです。



サバイバル踏破2日目。早い班は5時過ぎに出発しました。前日の疲労と体の痛みもありましたが、我が家であるBCへ戻るために、力強く歩みを進めました。体調の悪い仲間を気遣い、励ましたり歌を歌ったり、班で工夫して長い道のりを歩き続けました。荷物の背負えない仲間のバッグを持ち、合計で40kg近くの荷物を背負った参加者もいました。

いよいよ各班の到着。一緒にゴールテープを切る時には、どの班も全員がやりきった笑顔で、出発前より互いの顔を見合っている様子が見られました。先に到着した班が後続の班を拍手で迎える様子も微笑ましかったです。

夕食は、はくばく様提供のお好み焼きと、八丈教委提供の海水で茹でたジャガイモで踏破記念パーティーをしました。また、地元漁協組合の方が提供して下さったキンメダイの解体ショーが開催され、八丈島の海の恵みもいただくことができました。夕食後は、「サバイバル踏破報告会」。ファイヤーの前で各班それぞれに、感じたこと、印象に残ったこと、大変だったこと、を話しました。参加者の言葉には、八丈島の方々の優しさに対する感謝の気持ちが溢れていました。仲間と協力して歩いた長い道のり、苦勞を乗り越える達成感、互いを思いやり支え合うことの大切さ、人の優しさの有り難さ、多くのことを感じて過ごした2日間でした。



自主の日（8月7日） 班別自主活動、スノーケリングⅡ



過酷なサバイバル踏破の次の日は、事前に自分たちで計画を立てた班別自主活動を行いました。サイクリングで島内を巡り、疲労で余裕がない踏破時には見られなかった景色をゆっくり見た班や、有名なカフェに寄って美味しいソフトクリームを食べる班がありました。植物園へ行った班は、八丈島に生息する光るキノコや南国特有の植物を見られました。かわいいキョンと出会うこともでき、心が癒やされた参加者も多かったようです。八丈島のすべてを知りたいといった理由から八丈富士登山を計画していた班も、筋肉痛と戦いながら、笑顔で帰ってきました。どの班も、最後の最後まで八丈島を満喫することができた半日でした。

午後は2回目のスノーケリング。ブルーアーチさんのご指導の下、遊泳場所をより深いところに移しました。魚の数もより多く見えたり、ウミガメに再会したりする班があり、八丈島の海を満喫している様子でした。また、堤防からの飛び込みも行うことができ、中には空中で一回転している参加者もいました。山梨では決して出来ない体験を存分に楽しんでいました。



閉村の日（8月8日）

BC撤収、ふるさとタイム、さよならレセプション

8日目。あっという間に閉村の日を迎えました。この日も天気は快晴でした。八丈島に到着してから、今までの生活を思い出しながら、個人の荷物をパッキングしました。そして強い日差しの中ではありましたが、撤収作業を行いました。備品やペグが足りなかった班もあったようでしたが、すべての作業を予定通りに終えることができました。作業開始より、八丈町教育委員会の方々には、すべての場面でご協力いただきました。手際よく、順調にすべての作業が進んだのは、八丈町教育委員会のみなさんのおかげでした。本当にありがとうございました。



午後は2班ずつに分かれ、八丈町のお土産屋さんで買い物をするふるさとタイムと、ふれあいの湯での入浴タイムを交代で移動しました。BC撤収後のため、夕方からは三根小学校の体育館をお借りして活動しました。小学校に着いた班から、所属校の校長先生へ葉書を書きました。海洋道中で感じたこと、学んだこと、自分にしか書けないことを伝えようと、みんな時間をかけて書き上げていました。

八丈島での最後の夜、現地研修最後のプログラムとなる「さよならレセプション」を行いました。第1部では、「六人会」の皆さんに「八丈太鼓」を披露していただきました。体中に響き渡る迫力ある演奏で、知らず知らずのうちに太鼓の世界に引き込まれていきました。第二部では、班ごとに八丈での思い出を振り返るスタンプ披露があり、どの班も自分たちにとって印象深い瞬間を表現してくれました。



離島の日（8月9日）

9日目。とうとう八丈島とのお別れの日が来ました。最後の夜を過ごした三根小学校では、感謝の気持ちを込めて、念入りな清掃を行いました。その後、底土港に移動し、離島式を行いました。そこでは参加者代表が、現地研修での思い出や八丈町の方々への感謝の気持ちを伝えました。その後、八丈富士を背景に、最高の仲間たちとともに記念写真を撮り、八丈町の多くの方々に見送られるなか、乗船しました。出航後、見送っていただいた方々と「八丈島」に、いつまでも手を振り続ける姿が、とても印象に残りました。



下船後、最後の班別ミーティングを行いました。仲間やVL、そして指導者、それぞれの思いを受け止め合い、じっくり八丈島での生活を振り返りました。バスの中で「解団式」を行い、この充実した9日間、参加者・指導者それぞれに互いの成長や変化を感じながら、第35回「やまなし少年海洋道中」の最後を迎えました。

ありがとう、八丈島！

今年度の35回「やまなし少年海洋道中」も、参加者一人ひとりの大きな成長とともに、一生忘れることのできない9日間を過ごすことができました。

現地研修中、いつも近くでサポート体制を整えてくださっていた八丈町教育委員会の皆さんの多大なる協力、さらには八丈町の方々の心温まる優しい言葉に何度も助けられ、勇気づけてもらいました。参加者や指導者が、これまで以上に大きく成長することのできた「八丈島」に感謝しながら、今年度の「でっかい体験」は無事に幕を閉じました。